

「立志塾を卒業して5年が経った。大学を卒業して社会人になった今でも、立志塾で過ごした中で感じたこと・考えたことを思い出すことが多い。その中で、今の立志塾の受験生に伝えたいことを書いてみました。」君たちより少しだけ先に立志塾を卒業した加藤君からの、みんなへのメッセージを受け取ってほしい。

### 「等身大の自分を受け入れること。」

今振り返って思うと、受験を通して学べたこと、そして今も活きていることはこれだと思う。

どうしてあいつは自分よりそれほど勉強していないのに点数が取れるんだろうと落ち込む、あるいは、目標に達していない自分に不安になり、落ち込み、目の前のやるべきことに集中できず逃げ出したくなる、そう思うことは、点数という絶対的な比較基準の下で勝負する受験において一度は感じるのだと思う。僕自身も、受験のときは最後の最後まで合格基準点に達することができず、受験日の前日まで「安心」なんて言葉は頭の中に微塵もなかった。浪人したということもあり、後がなく常に追い込まれながら勉強することの辛さはその時嫌というほど実感した。大げさではなく、今の受験生の置かれている立場を想像すると心中察する。

そんな中で、自分がそんな状況を脱するためにしたことは「等身大の自分を受け入れること」だった。他人が3回やることができることを自分は10回やらないとできないという「事実」を受け入れること。他人と能力を比較するのではなく、自分がどれだけ時間と量をやったらその問題を解けるようになるのかをちゃんと理解すること、これがとても大事だと思う。例えば僕は英語の単語を覚えるとき、覚えられない単語は200回紙に書いて覚えた。なぜそうしたかという、「そうしないと覚えられないから」だ。「1日10時間以上勉強すれば受かる!」なんて言葉にはまったく説得力がないと僕は思う。

そもそも、がんばる・がんばらないの話ではない。そうではなく、(つらいかもしれないが)今の自分の能力を受け入れて、じゃあ自分ならどれだけやれば覚えられるのか、理解できるようになるのかを判断する。その上で今の自分に必要な勉強の内容、方法、時間を決める。(ちなみに、僕が受験生の時、目標と比較して「やらなくちゃいけない量」を知った瞬間、眩暈がした、、だがこれが事実であり、乗り越えなければならぬ壁だと悟った。)そんなふうには、自分という人間はどうやってできるようになるのか、これを是非考えてほしい。

### 「立志塾の軸」

どうやったらできるようになるのか、これを一緒にやって本気で考えてくれる存在が「立志塾」だと僕は



慶應義塾大学の卒業式で仲間と一緒に。ここにいるという事実は、自らの過去によって成り立っている。

# 卒業生からの手紙

加茂高校 理数科卒業  
慶應義塾大学環境情報学部合格  
2008年卒業  
加藤宏志君

中学・高校・浪人と7年間を立志塾で過ごし、加茂高校→慶應義塾大学(環境情報学部)に合格。現在は社会人2年目。大手外資系企業に勤務する。大学在学中は、毎年年末に行われる「センター英語で190点とる会」等で、その経験や学習方法を後輩に伝え続けた。

あれから5年、

# 立志塾生に今、伝えたいこと

思う。立志塾の授業、テキストはこの「どうしたらできるようになるのか」を元に創り出されている。そして、立志塾の先生方は「どうしたらできるようになるのか」を一緒に考えてくれる。

僕は、そういう立志塾に本気で向き合っていたと思う。過去、立志塾の先輩、後輩を見ても、立志塾を信じ切ってやりきった人は全員自分の次のステージをつかみ取っている。そして僕自身も、最底辺から慶應に合格することができた。そして次のステージをつかみ取った人達はかならず立志塾の「軸」を大事にしていたと思う。

小テストなどは必ず満点を取るまでやる、与えられたテキストは隅から隅までボロボロになるまでやる、授業のノートは思考の過程がわかるようにまとめる、1周やってわからない問題集は2周、3周、4周はやる(僕は第一志望の赤本は4周解いた。)、一度やった問題は必ずなぜできなかったのかを明確にする(問題は解いた後が一番重要)、英文を何度も繰り返し音読する、、、そういう立志塾でずっと続いている「軸」をみんなも実践してほしい。その軸さえぶれずに続ければおのずと結果はついてくる。

そして、結果が出ると、周りの自分を見る目がガラリと変わる。そんな瞬間を是非みんなにも体感してほしい。

### 「受験生が置かれている立場は厳しい?それとも恵まれている?」

受験生みんなは受験を控えた今、自分の立場をどう思うだろう

か。毎日勉強でつらいだけと感じるだろうか。実際僕が受験生の時はそう思っていた。でも、あれから数年経った今思うことはまったく逆のことだ。目の前の問題を解けるようになるだけで(これが難しいことだと十分承知の上だが)ステージを変えられる機会を与えられていること。大げさかもしれないが、この時点で世界中の同世代の子達よりも遥かに恵まれている。逆に、自身の行動で自身のステージを変えられない立場、これほどキツイものはない。

さらに言えば、お金を投資してもらい、塾に通わせてもらっている。自分を応援してくれる人がいて、自分をサポートしてくれる人がいる。投資される側の人間であり、自身の行動で自身のステージを変えられる、この可能性に満ちた機会を活かすも殺すも、まさにその一瞬によって決まる。目の前のその一問を解くこと、授業の際にとったノートのその一行のメモ、その一つ一つがその先の合格につながっている。

あと数か月後、喜んでいる自分、悲しんでいる自分、それを決めるのはまさにその一瞬。机の上に向かって、その目の前の一問を解けるようになること、その一問、その一瞬を本当に大事にしてほしい。

### 「変えられない過去。変えられる未来。」

今の自分は過去の経験によって成り立っている、このことは変えようのない事実だと思う。でもそれと同じように、将来の自分は、これから何を自分に経験させるかによっていかようにも変わってくると思う。この時期に何をどれだけ勉強したかで未来の自分は確実に決まる。今、自分の中に少しでも「こうなりたい」という将来があったら、そのために自分にたくさんのことを経験させて、自分の次のステージをつかみ取ってほしい。

(2013/10/7 加藤宏志)